



日本太鼓財団

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2024年春号

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-2 日本財団第二ビル6階

公益財団法人 日本太鼓財団 理事長 大澤 和彦

Tel. 03-6205-4377 Fax. 03-6205-4378

URL : <https://www.nippon-taiko.or.jp> Email : info@nippon-taiko.or.jp

会報

三代目源流(大分)が2度目の栄冠に輝く!!

第26回日本太鼓ジュニアコンクール



(選手宣誓:「舞鶴一座秋月鼓童」馬渡 志桜さん)

3月24日(日)、日本太鼓財団主催、日本太鼓財団埼玉県支部主管により、第26回日本太鼓ジュニアコンクールを埼玉県さいたま市の大宮ソニックシティにおいて開催いたしました。

全国で行われた予選会(予選実施38支部 3,084団体 15,404名参加、支部推薦4団体、支部未開設府県2団体)から選抜された44団体444名に加え、ブラジルチーム12名、台湾チーム11名の総勢46団体、467名が出場しました(最年少6歳)。さらに、特別出演として、前年度優勝団体の宮崎県「橘太鼓『響座』ジュニア」が参加しました。

優勝旗を持った「橘太鼓『響座』ジュニア」、ブラジル代表「オザスコ轟太鼓」、台湾代表「^{ぼっりん}柏齡太鼓團」が中央に並び、全出場団体がステージに整列して開会式が行われました。

国歌斉唱に続き、当財団の長谷川義会長、埼玉県知事代理 埼玉県県民生活部文化振興課 高野正規課長、埼玉県支部嶋田浄支部長が挨拶し、日本財団 吉倉和宏常務理事よりご祝辞をいただきました。その後、前年度優勝団体より、優勝旗並びに優勝杯が返還され、優勝杯レプリカと桶胴太鼓が贈呈されました。

続いて抽選で出場順1番となった宮崎県代表「舞鶴一座秋月鼓童」の馬渡志桜さんが選手宣誓を行い、長谷川会長による初切り太鼓でコンクールの幕が上がりました。

出場46団体が大会規定に基づき、長谷川義会長作曲による課題曲「気鋭」と自由曲を演奏し、最後に前年度優勝団体「橘太鼓『響座』ジュニア」が特別演奏を披露しました。

各団体の演奏が終わる度に、お客様よりあたたかい拍手と声援が送られました。

閉会式では、古屋邦夫審査委員長より総評をいただき、審査結果が発表されました。今年度は大分県「三代目源流」が優勝を果たし、栄えある内閣総理大臣賞に輝きました。城内三美代表の下、10歳から17歳までの9名のメンバーが練習を積み重ね、第20回大会に続き、2度目の優勝となりました。

また、準優勝の宮崎県「太鼓研修センター『響』」には総務大臣賞が、第3位のブラジル「オザスコ轟太鼓」には文部科学大臣賞がそれぞれ贈られました。台湾「柏齡太鼓團」は埼玉県教育委員会教育長賞を受賞しました。

本大会は2,000名のお客様にご来場いただき、インターネットによる生中継も行い、海外の皆様にも若さ溢れるジュニアコンクールを通して、日本の伝統文化である和太鼓をご視聴いただきました。

各団体が日頃の練習成果を余すところなく発揮し、共に競い合った一日でした。多くの学びと刺激、そして仲間との交流が、今後の成長やチーム活動に活かされていくことを期待しております。

最後に、本大会の開催にあたりご尽力をいただきました審査委員、技術委員の先生方、関係各位の皆様へ感謝申し上げます。また、保護者の皆様、大会運営のために行き届いた心配りをして下さった埼玉県支部をはじめとする多くのスタッフの皆様へ厚く御礼申し上げます。



(優勝した三代目源流)

受賞一覧

- 優勝・内閣総理大臣賞
 - 準優勝・総務大臣賞
 - 第3位・文部科学大臣賞
 - 第4位・埼玉県知事賞
 - 第5位・さいたま市長賞
 - 特別賞 埼玉県教育委員会教育長賞
さいたま市教育委員会教育長賞
NHKさいたま放送局賞
株式会社テレビ埼玉賞
埼玉新聞社賞
浅野太鼓楽器店賞
諏訪響太鼓店賞
宮本卯之助商店賞
丸五賞
篠笛立平賞
ブラジル太鼓協会賞
台湾太鼓協会賞
国際友好賞
国際友好賞
- 三代目源流（大分）
 - 太鼓研修センター「響」（宮崎）
 - オザスコ轟太鼓（ブラジル）
 - 舞鶴一座 秋月鼓童（宮崎）
 - おおむら太鼓連くじら太鼓（長崎）
 - 柏齡太鼓團（台湾）
 - 糸島二丈絆太鼓（福岡）
 - 権兵衛 Jr. 燎～kagaribi～（福井）
 - 大和太鼓保存会鼓天童子（佐賀）
 - 東京都立松が谷高等学校和太鼓部（東京）
 - 和太鼓集団響屋ジュニア（香川）
 - やまばと太鼓（秋田）
 - 火の神乙女太鼓 爽（鹿児島）
 - 輪島・和太鼓 虎之介（石川）
 - 天城連峰太鼓（静岡）
 - 糸島二丈絆太鼓（福岡）
 - 越中いさみ太鼓保存会 春蘭（富山）
 - オザスコ轟太鼓（ブラジル）
 - 柏齡太鼓團（台湾）

*優勝した「三代目源流」（大分）から感想文をいただきましたので掲載いたします。

「第26回日本太鼓ジュニアコンクールで優勝して」

三代目源流 代表 城内 三美

今回の優勝は震えるほどの感動をいただきました。

子ども達は日々の練習に全集中し、今回の優勝にかける思いが伝わってきていました。しかし、優勝したいのはどのチームも同じです・・・。

コロナ感染症が拡大し、全国大会が中止になった年も、ビデオ審査の年も、2位、3位と優勝には手が届かず、悔しい思いが募っていました。

今回優勝旗をいただけた大きな勝因は、お互いがお互いを思いやる姿、先輩を「優勝」させたいという心からの願いがあったからにはほかありません。高校2年生で出場した2人に「優勝」をプレゼントしたい!!という思いがより強かったからでしょう。



(優勝時の演奏)

指導して下さった先生方は、昼間の仕事をこなし集まってくださり、保護者の仲も良く、送迎も頼んだり、頼まれたりして協力体制ができていました。由布市相馬市長をはじめ、社会教育課、湯布院公民館の方々の協力体制も整い、全てのベクトルが大会必勝に向かっていたように感じていました。本当に感謝で一杯です。今大会に出場させていただくことで、子ども達は大切なものをたくさん学ばせていただきました。

大会運営をしていただきました日本太鼓財団の皆様、埼玉県太鼓連盟の皆様、埼玉県支部の皆様、各関係各所の皆様、多くの方々のご協力にこの場をお借りして感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

審査委員 (敬称略・五十音順)

- 浅野 昭利 (財団理事)
- 川村 真悟 (太鼓芸能集団 鼓童 プロデューサー)
- 喜 多 郎 (演奏家)
- 高野 右吉 (財団副会長)
- 古屋 邦夫 (財団技術委員会委員長) *審査委員長
- 山部 泰嗣 (太鼓奏者)

リーダー 阿南 晴大 (17歳)

僕が太鼓を始めたのは、小学校3年生の時でした。初めて太鼓を打った時から、今まで9年間、全力で太鼓に向き合ってきて、うまくいかないことの方が多かったです。ですが、「太鼓が好き」その一心で、がむしゃらに練習してきて本当に良かったと思います。太鼓の技術について教えてくださった先生方、送迎などで自分をサポートし続けてくれた家族には、本当に感謝しかないです。

また、優勝した瞬間は、とてもほっとしました。前回優勝してから6年、もう一度優勝したいという気持ちは強かったですし、後輩たちに、優勝したときのステージからの眺めを見せてあげたいと、自分がリーダーになってから今日までの2年間、考えていました。自分自身もジュニアの卒業が迫るなかで焦り、リーダーとしてのプレッシャーはとても強かったので、優勝が決まった瞬間は涙が止まりませんでした。また、リーダーとして後輩とどう接すればいいのか、どうやって教えるべきかなどは、たくさん悩んで、いろんな人に相談しました。辛い事もたくさんありましたが、とてもいい経験だったと思います。

そして、今回、優勝できた一番の理由は、九州大会で準優勝になり、悔しい、勝ちたいという強い気持ちが、メンバー全員に芽生えたことだと思います。そのおかげで、大会前の練習に皆とても気合が入っていました。本番では、練習で行ったことを全て出し切り悔いのない演奏が出来ました。

最後に、これからの1年間は、様々な場所での公演が増えると思います。その分色々な人に見られるということ、たくさんの人達に支えられて太鼓が打っているということ、自分たちは日本一であるという自覚を忘れず、常に成長し続けられるように努力していきたいです。

迫 芽吹 (17歳)

私は小学校3年生から太鼓を習いはじめて今年で10年目ですが、今回で2度目の優勝をいただくことができました。ですが、前回とは全く違ううれしさや大変さを経験しながら日々練習にはげみました。前ははまだ小学生だったので高校生の先輩方にたよってばかりでただ一生懸命曲を打っているだけでしたが、2年前くらいから最高学年として小中学生を引っぱる立場になりました。そこから私は下の子に指導することにあまり自信がなく、不安ばかりだったのでうまくいかないことが多くありました。そして私は高校で部活もしているので練習に行けずみんなに迷惑をかけていましたが、私をメンバーとして受け入れてくれたことをみんなに感謝しています。前回の優勝からどんどん人がへっていき、毎年日本一だけを目指して新しいところからスタートしていましたが、良い成績は

残せたものの優勝まであと一步、二歩でとまっていた。昨年の12月の九州大会で準優勝という悔しい思いをメンバー全員がしました。そこから切り換えて全国大会までの3か月間は本当に充実したものになっていったと思います。全員が優勝したい、日本一になりたいと心から思って練習もあともう1回打ちたいという前向きな姿勢で取り組むように変わり、九州大会や今までの大会で悔しい経験をしたからこそ、自分たちでも自信のもてる演奏ができ優勝をいただくことができたと思います。もしここで優勝ができなかったら、今回の大会を最後にしようと考えており、どんな結果であっても最後の5分間だったのでいつもより一打に込める想いが強かったと思います。打ち終わった後に見ていてくれた家族や友達からたくさんうれしい言葉ももらったので、残り1年ですが、見てくれる人に感動や笑顔を与えられる太鼓を打ちたいと強く思いました。また、古い日本の伝統芸能の一つである和太鼓を多くの人に知ってもらい、もっと広まってほしいなと思います。

長谷川 凜 (13歳)

私は「今回の第26回日本太鼓ジュニアコンクールで優勝、内閣総理大臣賞を受賞し、5、6年間の努力がやっと報われた」と感じました。今年の大会で負けていたらチームで女の子は私と高校3年生の芽吹ちゃんだけだから、これからは、だれにたよればいいのかというくらい不安でした。でも優勝し、あと1年間一緒に太鼓ができる。それがなによりもうれしいです。大会後1週間くらいは、実感がありませんでしたが、市長、県知事への報告会で私たちは、日本一なんだと実感がわいてきました。これからどんどん今のメンバーから人数がへって、今までは、教えてもらう側だったけど、教えるという立場になって、いつかは、リーダーになってチームを引っばるとするのは、正直、不安だけどこの1年間で、胸を張って教えるという立場になれるよう、成長していきたいです。これが、三代目源流最後の優勝にならないように締太鼓であんなにうまい人初めてみた！と言ってもらえるような太鼓を打ち、チームの完成度もどんどん上げていきたいです。この1年間私たちの全国1位という目標をかなえるために、毎日山まで送ってくれた家族、寒い中ご指導してくれた先生方、一緒に頑張ってきたメンバー、この1年間誰よりもそばで支えてくれた芽吹ちゃん、本当にありがとうございました。

第27回日本太鼓ジュニアコンクールは
2025年3月23日(日)大分県大分市
「iichiko グランシアタ」で開催!

海外太鼓交流～ブラジル・台湾招請～

昨年7月に行われた「第17回ブラジル太鼓ジュニアコンクール」(8団体85名参加)で優勝を果たしたブラジル「オザスコ轟太鼓」と、昨年10月に行われた「第14回台湾太鼓ジュニアコンクール」(10団体123名参加)で優勝を果たした台湾「柏齡太鼓團」が来日しました。

3月22日(金)、コンクールに先立ち、両団体は会場の大ホールで行われた成功祈願祭に臨み、所作を真似ながら神聖な雰囲気緊張した様子で参加されていました。23日(土)のリハーサル後は、他の出場団体のリハーサルを見学し、大会に向けて気持ちを高めていました。

大会当日、ブラジルチームは「喜^き寿^ず生^ぎ」という曲を演奏し、コロナ禍での困難やそれを乗り越えた人々の勇気や喜びを表現しました。台湾チームはジュニアコンクールで優勝できるようにと、チャレンジ精神を込めて作曲された「挑戦」を披露し、日頃の練習の成果を見事に発揮した演奏で、観客から大きな拍手を受けていました。

緊張で張り詰めた結果発表では、ブラジルチームが第3位に入賞し、文部科学大臣賞を、台湾チームが埼玉県教育委員会教育長賞を受賞し、海外における太鼓の技術向上が感じられました。

メンバーたちは「日本のジュニアチームのレベルの高い演奏や礼儀正しさ、またスムーズな舞台進行を実際に見て驚き、感動した」、「自分たちもますますがんばっていきたい」と話していました。

大会終了後の夜、両チームと前回優勝団体である「橘太鼓『響座』ジュニア」も加わり交流会を行いました。子供たちは、お互いに用意したお土産の交換や出し物を披露し合い、言葉の壁を越えた交流を深め、賑やかな会となりました。



(海外チームと橘太鼓「響座」ジュニアの交流会での様子)



(台湾チーム：賞状授与)

コンクールから一夜明けて、大会の緊張感から解放された両チームは都心へ移動し、台湾チームは観光ののち26日(火)に、帰国の途に就きました。

ブラジルチームは、25日(月)午前中に「和の杜スタジオめでたい」にて特別講習会を受講し、午後から浅草の宮本卯之助商店を訪問しました。世界の太鼓が展示されている「太鼓館」では、普段見ることができない世界各国の様々な太鼓を実際に演奏することができ、満足そうな様子でした。26日(火)午前にはJICA横浜の海外移住資料館を見学して自分たちのルーツを学び、午後からは日本財団を表敬訪問し、尾形武寿理事長を前にジュニアコンクールで演奏した曲を披露しました。尾形理事長からは、歓迎と励ましの言葉があり、ブラジル訪問の際には再会を約束されました。

「太鼓演奏はもちろんのこと、あこがれの日本で素晴らしい体験をし、一生忘れない良い思い出となった。皆様に感謝したい。学んだことを次につなげて、これからもがんばって太鼓を続けていきたい」とメンバーたちは元気に日本を後にしました。



(ブラジルチームを激励する日本財団尾形理事長)

第71回日本太鼓全国講習会（熊本）

2月24・25日（土日）宇城市「小川総合文化センター・レポート」

全九州太鼓連合、熊本県支部主管の全国講習会を実施いたしました。地元の熊本県をはじめ、15都府県と台湾やブラジルからの参加を含む202名が受講しました。開会式では、当財団長谷川義会長、全九州太鼓連合岩切邦光会長、熊本県支部塚塚栄男支部長からそれぞれ励ましと歓迎の挨拶がありました。2日間に渡り、受講生たちは熱心に講習を受けていました。

○総合指導 古屋 邦夫（財団技術委員長）

○基本講座

3級基本講座 野方 嘉孝

4級基本講座 高島 奈々

5級基本講座 松枝 明美

○専門講座講話 長谷川 義（財団会長）

○専門講座

単式単打法講座（大太鼓） 岩切 響一

複式単打法講座 今泉 豊

複式複打法講座 長谷川 義

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

1級検定 13名受験 13名合格（4名認定）

2級検定 31名受験 31名合格（13名認定）

3級検定 12名受験 12名合格・認定

4級検定 41名受験 41名合格・認定

5級検定 64名受験 64名合格・認定



（5級基本講座）



（単式単打法講座）

成田太鼓祭に参加 ～全国太鼓情報発信基地に多くのお客様～

4月20・21日（土日）千葉県成田市の成田山新勝寺とその表参道において「成田太鼓祭」が開催され、両日合わせて22万人もの来場者で賑わいました。千葉県支部、千葉県太鼓連盟、当財団の協力で設置した「全国太鼓情報発信基地」には2日間でおおよそ3,000人のお客様が訪れ、昨年度行った事業の紹介や6月9日に開催する「日本太鼓ジャンボリー2024」のご案内を行いました。浅野太鼓楽器店のご協力を得て設置した大太鼓の試し打ちコーナーでは、お子様や外国人等多くの方々に楽しんでいただきました。



（成田山表参道の様子）



（大太鼓の試し打ちコーナー）

2023年度JICA事業 日系社会研修「太鼓の指導者育成」 研修生4名 全員公認指導員に認定

新型コロナウイルスの影響で中止されていたJICA事業「日系社会研修「太鼓の指導者育成」」を4年ぶりに実施しました。この事業は、JICA（独立行政法人国際協力機構）からの受託事業として、中南米地域の日系社会と日本の連携に主導的な役割を果たす方が対象となります。

今回は、ブラジルから4名が来日し、2024年1月8日（月祝）から3月26日（火）まで、研修が行われました。

JICA横浜センターでオリエンテーションを行った後に、諏訪響太鼓店（長野県岡谷市）に移動し、本格的な研修が始まりました。最終目標である3級公認指導員取得を目指し、2月24・25日（土日）に熊本県宇城市で開催した日本太鼓全国講習会の講習内検定に参加しました。

その他、様々な打法を学ぶため、御諏訪太鼓保存会（長野県岡谷市）、高野右吉と秩父社中（埼玉県秩父市）、豊の国ゆふいん源流太鼓（大分県由布市）で指導を受けました。

さらに、富岳太鼓（静岡県御殿場市）では、障害者への太鼓の指導方法、並びに高齢者施設等における太鼓の活用方法を学び、諏訪響太鼓店では太鼓の製造方法および修理方法を習いました。

* JICA 研修生より感想文をいただきました。

中原 エデルソン 一男（飛翔太鼓）

この研修は私にとって、講師になるための経験というだけではなく、太鼓奏者として、また人として私が進みたい道を示してくれました。私は子どもの頃から、祭りや大会など常にステージで演奏することを念頭に置いて太鼓をやっていました。この研修に参加したことで、太鼓がそれ以上のものであることがわかりました。

岡谷市では、組太鼓のはじまりの地を発見しただけでなく、太鼓の製作技術を学ぶことができました。御諏訪太鼓の皆さんはとても優しく感動しました。最も重要なことに、私たちは将来の太鼓指導者になるための訓練を受けました。

秩父市の研修のことを今でもよく覚えています。そこでは、毎年秩父夜祭りで演奏される秩父屋台囃子の曲を習いました。先代高野右吉の理想のスタイルを実現しようとするひたむきな姿勢と、学びたい人にはそれを教えてくれる優しさが見られました。

由布院市では、長谷川先生率いる「源流」太鼓チームの皆様と稽古させていただきました。非常に高いレベルで一貫してトレーニングを行っており、それは間違いなく、私の人生で最高の経験の一つでした。

富岳会では、太鼓は舞台上で演奏する以外にもいろいろな用途に使えることに気づきました。お年寄りや子供、何か困難を抱えている人など、さまざまな

3か月弱におよぶ研修の結果、3級公認指導員に4名全員が認定されました。日本語に苦勞しながらも、全員で協力し、元気いっばいに研修に取り組む姿が印象的でした。今回、日本で培ったことをブラジルに持ち帰り、太鼓指導に役立ててくれることを期待しています。ご指導いただいた先生方、お世話になった方々、まことにありがとうございました。

JICA 研修生4名

中原エデルソン一男（飛翔太鼓）

渡部ミレーネひかり（源流和太鼓）

デファリアドナシメント ジョアン マルセロ（光太鼓）

伊豆味エンリッケゆきお（桜吹雪和太鼓）



（左から渡部氏、マルセロ氏、中原氏、伊豆味氏）

立場の多くの人々を太鼓が助け、人々に自由を取り戻すのを見て、この文化を実践できることをとても誇りに、またうれしく思いました。

研修の最後には第26回日本太鼓ジュニアコンクールに参加し、スタッフの裏方の仕事ぶりを知ることができました。選手権では日本のジュニア太鼓のレベルの高さを観察することができました。

この3か月間、一緒にくださった先生方のおかげで、太鼓の作り方、理想を求めて生涯をかけて鍛錬すること、技術を極限まで磨くために全力で取り組むこと、そして、太鼓を使って他の人を助ける方法を学びました。素晴らしい経験をさせて頂いたJICAと日本太鼓財団になんと感謝して良いのかわかりませんが、できる限り多くの知識をブラジルに伝えていきたいと思っています。



（秩父屋台囃子を学ぶ中原氏）

渡部 ミレーネ ひかり (源流和太鼓)

JICAの太鼓の技術認定及び指導育成プログラムでの80日間の和太鼓研修で、日本の著名な先生方から技術、様々なスタイル、考え方、演奏方法を学ぶことができました。

太鼓は自身を世界に表現する方法であり、人生の本当の意味や自分のルーツとつながる方法を理解するのに必要なものです。今回の研修は、太鼓の知識を向上させ、サンパウロ南西地域の次世代にその知識を伝える機会だと考えました。8歳の頃から続けている太鼓は私の人生の一部であり、2017年に開催されたジュニアコンクールにブラジル代表として出場するという最大の夢を実現しました。この夢を叶えるまでの道のりは簡単ではありませんでしたが、その過程で、努力すれば夢は必ず叶うということを実感しました。

今回の研修で3級公認指導員をいただいたことで、チームを育成できるようになりました。私の目標は、太鼓で学ぶ「規律、努力、忍耐」を新しい世代に伝えることです。和太鼓の歴史を楽しく魅力的に学ぶこと、太鼓奏者の間に文化とのつながりや友情の絆を作り、チームワークを促進すること、太鼓製造方法を理解すること、そして、より多くの若者が素晴らしい指導者になるため、このプログラムへの参加を奨励することです。このような素晴らしい機会を与えていただいたことに感謝します。より多くの人に、このような素晴らしい体験をしてもらい、日本の太鼓がどのようなのかを自分の目で見てもらいたいです。

ゆふいん源流太鼓を訪れたとき、初めて和太鼓を見

たような気がしました。そして本当の和太鼓を理解しました。秩父市では、秩父夜祭りの伝統に感銘を受け、いつか日本に戻ってこの祭りに参加したいと思っています！高野右吉先生は、「伝統文化」を1人でも多くの人に伝えたいという大きな夢を持っておられます。そのお姿を拝見し、私もブラジルで「秩父屋台囃子」の教えを広めていきたいと思いました。富岳会では、そこで働く人々の気持ちを知ることができました。プロチームやジュニアチームと交流し、進歩した考え方を持っており、日々の練習は参考にしたいです。私たちの第二の故郷である御諏訪太鼓保存会は、私たちを快く迎えてくださり、理論的な太鼓レッスンをするための準備をしてくださり、伝統的な太鼓のスタイルを教えてくださいました。彼らはとても親切で、家族の一員だと感じました。心から感謝しています。最後に、JICA、日本太鼓財団の方々、講師の方々、一緒に研修を受けた同志にも感謝しています。



(源流太鼓を学ぶ渡部氏)

デファリア ドナシメント ジョアン マルセロ (光太鼓)

最近、自分の経験を言葉にすることが難しくなってきたと感じます。何故なら、出会った先生方の素晴らしさは、言葉では表現しきれないほどでした。

長い間、和太鼓の動画に感銘を受け、その奥深さを理解したいと思っていました。その奥深さは伝統芸能に携わる人々や、一人ひとりの思いや影響力によって築かれていると認識しています。単純なことのように思えるかもしれませんが、その真価を理解するには実際に体験する必要がありました。教えていただいた先生方から学ぶことの特別さ、苦勞して身につけた知識を少しでも垣間見ることができたことは、奥深さの重要性を再認識させられました。

また、研修中にお世話いただいた方々の献身と親切も感謝いたします。財団の皆様や和太鼓関係者がなぜ特別なのかを考えると、皆様が太鼓のために築き上げた美しさには心を打たれるばかりです。世界中の人が和太鼓に魅了されるのも当然のことと感じられます。

最後に、JICAからいただいたこの機会に感謝の意を示します。日々の研修は夢のようでした。JICAの皆様が私たちに費やしてくださった多くの時間、労力、そしてお金に対し、言葉だけでは足りないほど感謝し

ています。

言葉に詰まりますが、確かなこともあります。太鼓に人生を捧げた先生方の演奏を見た後では、以前のように振る舞えません。目標のない道を歩んでいるわけではなく、偉大な人々の足跡を追いながら進んでいると感じています。いつか立派な指導者になるために自分がどれだけ向上しなければならないかを痛感しましたが、人生の目標以上のものを得ることができました。後世の人々に刺激を与えるような存在になることを目指していますので、これからは、できる限りの方法でお返しするつもりです。

心から感謝いたします。



(諏訪響太鼓店にて製造方法を学ぶマルセロ氏)

伊豆味 エンリック ユキオ (桜吹雪和太鼓)

JICAの太鼓指導者育成プログラムに参加し、太鼓の奥深さを学び、指導者としての資質を磨く貴重な機会をいただきました。研修では、太鼓の構造や作り方、演奏方法を学び、太鼓の教本を活用した指導法についても指導を受けました。

主に御諏訪太鼓保存会での研修を行いました。ここでは、太鼓の歴史、楽譜、曲の教え方、演奏方法などについて学びました。ホテルに戻った後も一生懸命勉強し、翌日に学んだことを正確に伝えることが難しい部分もありましたが、諦めずに努力を続けることで徐々に上達し、自信をつけ始めました。また、理論的な研修に加えて、実際に太鼓の構造や作り方についても学ぶ機会がありました。特に、ブラジルと日本の太鼓の品質や音の響きの違いについて興味深い学びを得ました。

さらに、各太鼓団体を訪れる機会もあり、富岳太鼓の体のケアに力を入れる姿勢や、「高野右吉と秩父社中」の伝統太鼓と競技音楽の違いを理解し、また、豊の国ゆふいん源流太鼓の卓越性を追求する姿勢など、異なる太鼓のスタイルに触れることができました。この経験は非常に充実したものでした。

研修の締めくくりとして、埼玉県で開催されたジュニアコンクールにスタッフとして参加し、裏方の仕

事を担当しました。以前は、普段パソコンの画面でしか見ていなかった団体の熱気を間近で感じることができて、とても感動しました。

この研修を通じて、太鼓への情熱を深め、太鼓を愛する人々と交流し、日本文化を理解することができました。これらの経験から得た知識は、日系社会の太鼓指導者として次世代に太鼓の楽しさを伝え、日本文化の継承に貢献していきたいと思っています。この研修への参加の機会を与えてくださったJICAや日本太鼓財団、そして先生方に心から感謝しています。ありがとうございました。



(御諏訪太鼓を学ぶ伊豆味氏)

各種会議

<運営委員会・技術委員会>

第76回運営委員会・第81回技術委員会を1月19日(金)東京にて開催し、次の事項が審議、承認されました。

1. 令和6年能登半島地震について
2. 第26回日本太鼓ジュニアコンクール
課題曲、出場団体に関して審議すると共に抽選により出場順番を決定した。
3. 日本太鼓ジュニアコンクール開催要領・審査要領の改定
4. 2023年度事業の実施報告と今後の予定
 - ①太鼓エイド事業
 - ②日本太鼓ジャンボリー 2023
 - ③第8回大学太鼓フェスティバル
 - ④第25回日本太鼓全国障害者大会
 - ⑤第20回日本太鼓シニアコンクール
 - ⑥第26回日本太鼓ジュニアコンクール
 - ⑦第7回浅草太鼓祭
 - ⑧第38回国民文化祭、第23回全国障害者芸術・文化祭「太鼓の祭典」
 - ⑨日本太鼓技術普及事業(全国・支部講習会)
 - ⑩日本太鼓貸与事業
 - ⑪広報協力、後援、調査研究事業
 - ⑫日系社会研修事業
 - ⑬国際交流事業
 - ⑭組織運営

5. 2024年度事業計画(案)

- ①太鼓エイド事業
2024年度太鼓エイド事業は計40事業申請があり、運営委員による審査が行われた。審議の結果、4事業が不採択となり36事業が採択された。
 - ②大阪・関西万博1000人太鼓(仮称)について
6. 一般会員の入会

<理事会>

理事会を3月7日(木)東京にて開催し、次の事項が審議、承認されました。

1. 2023年度事業計画及び収支予算変更(案)
2. 2024年度事業計画及び収支予算(案)
3. 評議員会の開催
4. 特定費用準備資金規程
5. 能登半島地震に係る2024年度会費の免除
報告事項 職務執行状況
能登半島地震の報告

<技術委員会>

第82回技術委員会を3月24日(日)埼玉にて開催し、次の事項が審議、承認されました。

1. 第26回日本太鼓ジュニアコンクール講習
2. 公認指導員の認定

令和6年能登半島地震 被災地支援について

1月1日の能登半島地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災者の方たちへの支援のために寄付をお願いしましたところ、多くの寄付金をお寄せいただきました。寄付金の合計は4月末日現在で、12,791,482円になりました。寄付して下さったみなさま方に心よりお礼申し上げます。

これまでの経緯について、ご説明いたします。

1月1日発災後に役員間で連絡を取り、対応の方針をすり合わせて寄付金を募ることとし、太鼓財団公式サイトに寄付のお願いを掲載しました。対応の方針については、復旧、復興の状況によって求められるものが変わるため、段階によって内容を変えることとしました。またこの支援については、被災地入りが難しい一方で、状況を知る必要があるため、職員を雇用し、現地に置くことにしました。

1月19日に「令和6年能登半島地震 日本太鼓財団被災地支援方針（第1版）」を運営委員会に諮り、承認されました。

主要部分の抜粋は以下のとおりです。

～引用開始～

令和6年能登半島地震 日本太鼓財団被災地支援方針
第1版2024年1月19日

(支援の方向性)

- ・寄付金は全て支援に利用し、間接経費に用いない（経費は日本太鼓財団会費で負担）
- ・寄付金額と用途とを全て明確にし公表する
- ・後述の支援段階に応じて適切に用途を変更する
- ・被災の実情把握によって都度用途を変更する
- ・支援は被災の度合い、内容によって強弱をつける
- ・ソフトウェア支援（モノ以外の支援）を行う
- ・演奏に必要な楽器等のハードウェア支援を行う
- ・建物等の大型ハードウェアの支援は行わない
- ・現金の直接支援（義援金支給）は原則として行わない
- ・国や自治体、日赤など大型の支援組織と活動が重ならないように配慮する

(配慮すること)

- ・寄付者への報告を確実に定期的に行う

～引用終了～

全文は公式サイトをご覧ください。

災害時の寄付金は近年、被災地を支援する大きな力となっています。その一方で、その寄付金が何に使われているのか、仔細まで明らかにされている例はあまり多くありません。本当に災害支援に全て使われているのかがはっきりしないことが多いのです。また、寄付金の運用主体の間接経費使用は、被災者の支援につながらないことになりかねません。今回の寄付金使用では、そのような疑問が生じないように配慮を徹底することとしました。

日本を襲う災害は、地震のほか、台風などの水害、地震後の津波のような複合型などの種類により、その支援の対応は変わります。

発災後、徐々に被災地の状況が伝わり始め、さいわい太

鼓関係の方には人的な被害がないことが分かり、この時点では当初見込んでいた太鼓本体の被災例が見つからなかったこと、被害は半島部とそれ以外では大きな差があり、特に輪島、珠洲などの被災が極めて深刻であることなどが分かって来ました。

多く使われている長胴太鼓は数十万円する高価な楽器のため、海に流されてしまっただけで新調となると、20基ほどで寄付金は払底する見込みであり、修繕であっても十数万円/基レベルで見積もる必要がありましたが、それらを想定せずに支援方針に従ってソフトウェア支援を中心に進めて良さそうだと考えられました。

復興支援は発災から時間が経過すると細っていくことが多くありますが、大きな災害からの復興は年単位での計画が必要とされます。

支援金の予算規模では長期の復興支援は難しいものと考えられましたが、できるだけ長い支援を行いたいと考えました。

これらに基づき、被災したチームへの広報や無形文化財指定の後押しなどのソフトウェア支援を行い、寄付金の使途として復興コンサートを企画しました。

当初は会場予約を考慮して2025年度の開催を見込んでいましたが、一刻も早く演奏したいとの意向が寄せられ、2024年11月下旬に会場が押さえられることが分かったため、2024年度内の開催とすることにしました。会場を押さえた石川県連の役員の方によると、概算で会場費を含めて600～800万円程度との見通しであるとのことでした。

これらに基づき3月7日の理事会にて支援方針を説明し、これに基づいた事業の計画と予算を、2023年度200万円、2024年度800万円の配分とし、承認を得ました。そのうち石川県連の役員に確認したところ、コンサートは石川県からの補助により県連の事業として行うこととしたとお話があり、寄付金でのコンサートはペンディングとなりました。

3月下旬から、寄付金を復興事業として使いたいとのご要望が複数上がってくるようになりました。その一方で、職員が珠洲市の被災地に入ることができるようになり、太鼓の被害があったことが初めて分かりました。現在、2基の太鼓の修繕を進めていますが、被害の全貌はまだ分かっていません。

日本太鼓財団は公益財団法人ですので、重要な決議事項は理事会決議でのオーソライズが必要となります。現在、公益法人として実現可能な事業の要望には予算を配分することを検討しております。当初の予定どおり、被災した太鼓等の支援が最優先であり、その予算を確保した上で、可能な事業は理事会に諮る予定です。

寄付して頂いた方々に改めて厚くお礼を申し上げますと同時に、支援にご理解、ご協力を頂きますようお願い申し上げます。寄付金は全て支援にお役立ていたします。1日も早く復興がなされることをお祈り申し上げます。

令和6年能登半島地震寄付者一覧

日本太鼓財団では、少しでもお力になればとの思いから、被害を受けた太鼓関係者に対する寄付金を受け付けいたしました。たくさんのご協力に感謝します。全額を復興支援にお役立ていたします。
いただいた寄付金は計12,791,482円です。(4/30現在)

(順不同・敬称略)

- 東北太鼓連合
- 関八州太鼓連合
- 全九州太鼓連合
- 北海道道北支部一同
- 北海道道東支部
- 北海道くしろ蝦夷太鼓保存会
- 釧路太平洋太鼓保存会
- 北海道道東支部一同
- 北海道道央支部
- 江別見晴台鼓楽会豊太鼓
- 追分いぶき太鼓
- 藤野太鼓
- 山口太鼓流北海若衆太鼓
- 北海道道南支部
- 北海みゆき太鼓
- 砂原権現太鼓保存会
- 颯太鼓
- 地獄太鼓
- 室蘭和太鼓會北風
- 螢太鼓
- 室蘭龍王太鼓
- 北海道道南支部一同
- 宮城県支部一同
- 山形県支部
- 鶴岡太鼓フェスティバル
- 東京都支部
- 和太鼓大元組
- 和太鼓会和光太鼓
- 荏原流れ太鼓ひびき會
- 向島游心太鼓
- 関東やまと太鼓
- 鳴神流雷神太鼓
- 梵天
- 湯澤 元一
- 田中 泰秀
- 小林 政高
- 千葉県支部一同
- 第22回心のふる里
- 「千葉の太鼓」会場募金
- 神奈川県支部一同
- 群馬県支部
- 上州榛東ふるさと太鼓
- 尾瀬太鼓愛好会
- 上州藤岡上杉管領太鼓
- 上州高山いぶき太鼓

- まむれ太鼓
- 上州あずま太鼓会
- かやのみ太鼓
- 神流川合戦太鼓新町しのぶ会
- 絆太鼓
- 株式会社原田 千寿
- 玉村夢太鼓にしきの
- 栃木県支部一同
- 茨城県支部
- 鹿島灘太鼓
- 本陣太鼓
- 和太鼓 友
- 静岡県支部一同
- 岐阜県支部
- 磨墨太鼓保存会
- 岐阜神代響太鼓
- 岐阜県太鼓連盟獅子の会
- 岐阜県支部個人2名
- 岐阜県支部一同
- 長野県支部
- 長野県太鼓連盟
- 有限会社 諏訪響
- 青木村義民太鼓保存会
- 足長剛勇太鼓
- あづみ野鼓友会
- 岡谷太鼓保存会
- 御諏訪太鼓保存会
- 御諏訪太鼓 三愛会
- 源流美麻太鼓の会
- 佐久鯉太鼓保存会
- 真田勝関太鼓
- 信濃国二之宮憑飛躍太鼓
- 信濃之国神川焔神太鼓
- 信濃国松川響岳太鼓
- 信州上田真田陣太鼓保存会
- 信州真田六文銭太鼓保存会
- 信州辰野太鼓
- 諏訪響太鼓連
- 聖太鼓保存会
- みのわ太鼓保存会
- 三好町やまびこ太鼓
- 三好町保育園
- 和田獅子太鼓
- 和太鼓 すわびと

- 愛知県支部
- 和太鼓かがり火
- 三河神明太鼓
- 杉浦太鼓店
- 願成観音太鼓保存会
- 鯨龍太鼓
- 三河神富太鼓
- 清須市清洲伝統芸能保存会
- 松平わ太鼓
- 尾張新次郎太鼓保存会
- 吉川太鼓鼓流
- 海東流神楽太鼓保存会
- 三重県支部一同
- 福井県支部一同
- 和歌山県支部
- 紀州躍虎太鼓保存会
- 紀州 音丸
- 清流太鼓 かなや伝々
- (高野口)木の国庚申太鼓
- 紀州ムラスベ
- DRUM 輪
- きのかわ支援学校高等部
- 和太鼓部
- 境原和太鼓クラブ
- 宇治田 良一
- 井寄 忠明
- 田原 綾子
- 滋賀県支部一同
- 奈良県支部
- 奈良県太鼓連盟
- やまと獅子太鼓
- 御所太鼓 燿
- 寧鼓座
- 田原本楼閣太鼓
- 和太鼓 鼓城
- 生駒山麓太鼓
- まほろば太鼓団 魁会
- 兵庫県支部
- 伊丹太鼓の会
- 神戸太鼓 ちびっ子連
- 豊岡こうのとり太鼓
- 播州新宮 越部太鼓
- 別所ともえ太鼓会
- 南あわじ太鼓衆 豊
- 養父太鼓 鼓彩
- 兵庫県太鼓連盟

- 岡山県支部
- 井原早雲太鼓
- 吉備真備太鼓
- 児島瑜伽太鼓
- 倉敷天領太鼓
- 豊洲如水太鼓
- ふじた傳三郎太鼓
- 河原 寛
- 藤丸 真由美
- 中村 天音
- 盛野
- 笠原 桃恵
- 高根県支部一同
- 賛助会員
- 浅野太鼓楽器店
- 宮本卯之助商店
- ブラジル太鼓協会
- 台湾太鼓協会
- 葫蘆墩Smile太鼓團
- 柏齡太鼓團
- 泰山太鼓團
- 向日葵太鼓團
- 樂波太鼓團
- 樂耕太鼓團
- 王妙涓
- 江孜藝
- その他
- NPO 法人てほへ
- NPO 法人東京都太鼓連合
- 和太鼓楽鼓の会グループ
- 楽鼓の会 月組
- 奈良楽鼓の会
- (有)志多ら
- 逢鷲太鼓連
- 日本太鼓財団事務局
- 個人
- 浅野 義幸
- 河合 光夫
- 櫛引 秀明
- 久野 壯
- 佐々城 清
- 高野 右吉
- 西岡 知則
- 西川 恵美子

「大阪・関西万博太鼓合同演奏」(仮称) 事業のお知らせ

2025年7月3日、2025年日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)のEXPOアリーナ(屋外イベント広場)にて、太鼓財団会員による合同演奏イベントを実施します!

概要

日時:2025年7月3日(木)

会場:大阪万博EXPOアリーナ(屋外イベント広場)

「太鼓合同演奏」は、数百人の太鼓財団会員が一齐に合同曲を演奏するパフォーマンスです。万国博覧会という大舞台で、日本中に、そして世界に向けて和太鼓の響きを轟かせる機会です。演奏曲は長谷川会長作曲の「いのちの響宴」。全国の会員の方々が集って一緒に演奏できる貴重なチャンスです!

参加方法

このイベントは会員の方ならどなたでもご参加いただけます。みんなで一緒にこの特別な日を盛り上げましょう。支部経由でアンケートを行いますので、参加ご希望の方はその旨をご回答ください。

参加にあたっての詳細は、会報等で追ってご連絡いたします。

皆様のご参加を心よりお待ちしております!

2024年度太鼓エイド交付事業決定

運営委員会を経て、理事会で次の36事業が承認されました。報告書受理後、助成金が交付されます。

支部講習会5事業(海外含む)	9月22日(日)	千鼓一祭～ひがし北海道から～	(北海道釧路市)
6月22・23日(土日)	9月22日(日)	北三陸復興太鼓祭り	(岩手県九戸郡洋野町)
第95回日本太鼓支部講習会	(北海道旭川市)	10月13日(日)、12月15日(日)	第12回全九州ジュニア和太鼓団体海外交流事業
7月6・7日(土日)	(台湾桃園県)	(台湾・鹿児島県)	
第16回全台湾太鼓全国講習会		10月6日(日)	山形県太鼓フェスティバル
9月28・29日(土日)	(北海道岩見沢市)	10月13日(日)	第32回東北太鼓フェスティバル
第96回日本太鼓支部講習会		10月13日(日)	第17回全台湾太鼓フェスティバル
10月12・13日(土日)	(ブラジルサンパウロ州)	10月13日(日)	第15回全台湾太鼓ジュニアコンクール
ブラジル検定試験		10月14日(月祝)	北海道和太鼓サミット
2025年		10月20日(日)	福井 ドドンと太鼓祭り
2月1・2日(土日)	(福岡県糟屋郡久山町)	10月26日(土)	広島県支部懇親演奏会・宇品みなと太鼓25周年記念演奏会
第97回日本太鼓支部講習会		(広島県広島市)	
教職員研修会3事業		11月10日(日)	第13回東北太鼓ジュニアコンクール
7月28日(日)	(栃木県塩谷郡高根沢町)	(福岡県二本松市)	
8月18日(日)	(三重県多気郡明和町)	11月17日(日)	九州和太鼓コンサートin星野村まつり
8月25日(日)	(宮崎県北諸郡三股町)	(福岡県八女市)	
宮崎県教職員太鼓研修会		12月1日(日)	第7回北海道太鼓ジュニアコンクール
一般事業28事業(海外含む)		12月15日(日)	第19回全九州・日本太鼓ジュニアコンクール
5月12日(日)、10月13日(日)	令和6年静岡県太鼓まつりin清水	(静岡県静岡市)	(鹿児島県鹿児島市)
6月2日(日)	第11回ボートピア河辺太鼓祭り	(秋田県秋田市)	12月15日(日)
6月～12月下旬	中日本太鼓連合講習会	(福井県越前市他)	日本太鼓ジュニアコンクール大阪府予選会
6月・9月・12月	近畿ブロック講習会	(滋賀県大津市他)	支部加盟団体演奏発表会(仮称)
7月13日(土)	しが和太鼓キャラバンコンサートinやす	(滋賀県野洲市)	(大阪府大阪市)
7月20・21日(土日)	全九州和太鼓サマースクール	(大分県由布市)	2025年
7月20・21日(土日)	西都夏まつり太鼓フェスティバル	(宮崎県西都市)	1月26日(日)
7月21日(日)	令和6年度長崎県太鼓連合演奏会	(長崎県東彼杵郡波佐見町)	第15回関八州太鼓まつり
7月28日(日)	第18回ブラジル太鼓ジュニアコンクール&フェスティバル	(ブラジルサンパウロ州)	2月23日(日)
8月18日(日)	Okayama Taiko Festival	(岡山県倉敷市)	和太鼓フェスティバル～萬岳に轟く太鼓の響き!～
9月1日(日)	第3回太鼓の和・第2回和歌山県ジュニアコンクール	(和歌山県有田市)	(栃木県那須塩原市)
			3月9日(日)
			東日本大震災令和7年3.11追悼演奏
			(宮城県亶理郡亶理町)

訃報

当財団総務課長、小山靖子さんが4月20日、亡くなりました。44歳でした。告別式は近親者にて営まれました。

小山さんは1979(昭和54)年、神奈川県生まれ。慶應義塾大学文学部卒業後、2007年に財団法人日本太鼓連盟(当時)に入会しました。

太鼓財団本部では主に総務と経理とを担当し、また堪能な語学力で海外団体との窓口を務め、さらにこの数年は日本太鼓財団の事業の柱となっていた公益認定上の事業区分を無くす作業に取り組み、内閣府公益認定委員会と粘り強く折衝を重ね、成し遂げました。

かねてより闘病中で、最後の出勤は3月24日の日本太鼓ジュニアコンクールでしたが、小山さんは逝去の直前まで在宅で決算業務を担いました。

常に明るく笑顔の小山さんは、財団本部にとってかけがえのない方でした。

小山さんの日本太鼓財団での日々に厚い感謝を、その中でなされた数多くの達成に深い敬意を、それぞれ表するとともに、そのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

事務局だより

日本太鼓ジャンボリー 2024

期 日:2024年6月9日(日) 開場17:30 開演18:00
会 場:文京シビックホール大ホール 〒112-0003 東京都文京区春日1-16-21
主 催:公益財団法人 日本太鼓財団
主 管:日本太鼓財団東京都支部
協 賛:日本財団
出演団体:日本太鼓財団東京都支部合同チーム(東京)
(順不同) 関東やまと太鼓(東京)、梵天(東京)、高野右吉と秩父社中(埼玉)
信州上田真田陣太鼓保存会(長野)、野武士(福岡)、
御陣乗太鼓保存会(石川)、輪島高洲太鼓(石川)、
輪島・和太鼓 虎之介(石川)、恵炎(京都)
三代目源流(大分) *第26回日本太鼓ジュニアコンクール優勝
櫛引秀明(北海道・地獄太鼓) *第20回日本太鼓シニアコンクール名人位
入 場 料:前売券2,500円 当日券3,000円

*チケットぴあにて
前売券販売中!
Pコード:268734



第95回日本太鼓支部講習会(北海道道北)

期 日:2024年6月22日・23日(土日)
会 場:旭川市永山公民館(永山市民交流センター)
〒079-8413 北海道旭川市永山3条19丁目4番15号 Tel. 0166-48-1659
主 催:日本太鼓財団北海道道北支部

総合指導・5級基本講座
古屋 邦夫(技術委員会委員長)
*詳細は決まり次第当財団公式サイトに
掲載いたします。

<お問合せ・申込先>
日本太鼓財団北海道道北支部 事務局 五十嵐 恵
〒071-8134 北海道旭川市末広4条4丁目1-20
Tel. 090-2072-4643

第27回代議員会

期 日:2024年7月12日(金) 13:00予定
会 場:AP品川(JR品川駅 港南口より徒歩6分)
〒108-0075 東京都港区港南1-6-31
品川東急ビル8F
参加資格:代議員、事務局(各支部計2名まで)、
賛助会員、一般会員、個人会員
*詳細は決まり次第、ご案内いたします。

日本太鼓全国講習会(富山)中止

2024年9月富山県にて開催を予定しておりました「日本太鼓全国講習会」は、「令和6年度能登半島地震」の影響により会場が使用できなくなったため中止いたします。ご理解のほどよろしく願いたします。

*今年度の全国講習会の実施は1回のみになります。

公認指導員誕生

公認指導員の昇級条件となる講習内検定を経て第82回技術委員会で検討した結果、1級公認指導員1名、2級公認指導員1名、3級公認指導員4名が認定、昇級されました。

- 1級公認指導員:萩原大輔(長野・みのわ太鼓保存会)
- 2級公認指導員:矢ヶ崎勇健(長野・御諏訪太鼓保存会)
- 3級公認指導員:中原エデルソン一男(ブラジル・飛翔太鼓)、
渡部ミレーネひかり(ブラジル・源流和太鼓)、
デファリア ドナシメント ジョアン マルセロ(ブラジル・光太鼓)
伊豆味エンリッケゆきお(ブラジル・桜吹雪和太鼓)

認定、昇級された皆様おめでとうございます。今後のますますのご活躍を期待しております。



公益財団法人 日本太鼓財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-2 日本財団第二ビル6階

Tel. 03-6205-4377 Fax. 03-6205-4378

URL: <https://www.nippon-taiko.or.jp> Email: info@nippon-taiko.or.jp

